

グルマーイの言葉についての瞑想

マハーシヴァラトリー

イーシャ・サーデサイ

はじめに

シッダ・ヨーガの道では、私たちはマントラ、オーム・ナマー・シヴァーヤを繰り返し唱えることが大好きです。そうですね？ そして、「吉兆をたたえ、マハーシヴァラトリーを祝う」と題されたシッダ・ヨーガ・サツァングへの招待を受けた瞬間から、私たちはこれまで以上に熱意をもって、このマントラを唱え始めました。

サツァングは、マハーシヴァラトリー——2026年2月15日——にシッダ・ヨーガ・ユニバーサル・ホールで開催されました。シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムのバガヴァーン・ニッティヤーナンダ・テンプルからライブ配信されました。マハーシヴァラトリーは伝統的には夜通し行われるため、ニューヨーク時間の夕方のサツァングになりました。かなりの数の国の人々が、このタイミングについて大喜びしたと聞きました。なぜなら、目を大きく見開き、マインドを研ぎ澄ませて参加できることを意味したからです。自分のことだと分かっていますよね！

サツァングでは、ニューヨーク市で俳優兼オーディオブック・ナレーターとして活動するシッダ・ヨーギのジュリアン・エルファーが司会を務めました。後に多くの皆さんが、ジュリアンによるサツァングの進行が非常に明快で親しみやすいと感じたと私に話しました。ジュリアンはマハーシヴァラトリーの意義と、この夜にシッダ・ヨーガの系譜のマントラ、オーム・ナマー・シヴァーヤをチャンティングすることが持つ特別な力について話しました。

ジュリアンのとても明確な導入の後、私たちはグルマーイの話に耳を傾けました。グルマーイは、マントラをチャンティングする前に、ロビン・ジェンセンが聖なるビルヴァの葉について説明することを伝えました。ビルヴァの葉は、特にこの夜にシヴァ神に供えられる伝統的なささげ物の一つです。

ロビンはカリフォルニア州在住のシッダ・ヨーギで、ビルヴァの葉が持つ意味について雄弁に語りました。また彼女は、偉大な賢人アーディ・シャンカラチャーリヤが書いた賛歌、「ビルヴァーシュタカム」を聴くことになるとも伝えました。ロビンは、この賛歌の旋律はグルマーイが作曲したと説明し、各詩節の終わりの繰り返しの部分——エーカ・ビルヴァム・シヴァールパナム(シヴァ神に神聖なビルヴァの葉をささげる)——を、シッダ・ヨーガ・ミュージック・アンサンブルと一緒に歌うよう私たちを招きました。(サツァングへの招待の中で、これらの言葉を覚えておくよう勧められたため、私たちはこれを歌う準備をして参加していました)

グルマーイが「ビルヴァーシュタカム」を歌いました。各詩節の終わりに指揮者のクリシュナ・ハダッドが、ミュージック・アンサンブルと共に「エーカ・ビルヴァム・シヴァールパナム」を歌うように私たちを導きました。

数日後、私はある人とセーヴァーの打ち合わせをしていましたが、もちろん、サツァングでのお気に入りの瞬間を振り返るために、数分の時間を取らずにはいられませんでした。その人は、グルマーイが「ビルヴァーシュタカム」を歌い、シヴァ神にプージャーをささげるまさにその場に自分が居合わせたことを、どれほど光栄に感じたかと話しました。このシッダ・ヨーギは、神、グル、そして大いなる自己の間に存在する一体性を感じました。それはユニバーサルホールに浸透している一つの声でした。神聖なつながりが確かに感じられたのです。

私たちはサツァングの間、既に「ビルヴァーシュタカム」の美しさと神聖さに浸っていましたが、聖なる音にさらに身を委ねました。私たちはグルマーイと共に、マントラ——ディークシャー・マントラである、オーム・ナマー・シヴァーヤ——をブーパーリー・ラーガでチャンティングしました。

マントラをチャンティングした後、私たちは非常に深く、非常に深遠な瞑想に入りました。そして瞑想から覚めると、立ち上がってグルたちにアーラティーをささげました。瞑想では目を閉じ、光を感知しました。アーラティーでは目を開き、アーラティーの炎を見守ったのです。

私たちは席に着き、感謝の気持ちで胸がいっぱいでした。数秒間、ユニバーサルホールのきらめく青いドームの下で、ただそこに座っていました。私たちの視線はグルマーイの姿に注がれ、彼女とのサツァングに参加できること——特にこの夜、マハーシヴァラトリーの夜に参加できること——への感謝を表すのに言葉はいりませんでした。空気の中の何かが変わり、鋭くなり、さらに輝きを増したように感じられました。私たちは耳をそばだてました。確かに、私はそうしました。私にとって、これがサツァングで最も胸躍る瞬間——グルマーイが教えを授けようとする瞬間——です。シッダ・ヨーギとして、私はマインドと知性と心を働かせたいと切望します。書き手として、自分の技術を使い、自分が受け取り理解したことを言葉で紡ぐ機会を心から楽しむのです。

きっとあなたも私と同じように、グルマーイが直接あなたに語り掛けていると感じたことでしょう。彼女の言葉はあなたのため、あなたの人生のこの時期のため、あなたが考えてきたこと、経験してきたことすべてに当てはまるものだと感じたでしょう。

グルマーイはサツァングで多くの教えを与え、その教えはさまざまな形で示されました。マカラ・サンクランティを祝うサツァングについての私の前回の「グルマーイの言葉についての瞑想」では、グルマーイは言動のすべてで教えていると書きました。また、グルマーイの言葉について個人として、そして集団として振り返ることの重要性について詳しく記しました。私たちのサーダナーにおける進歩は、グルが教えていることを解きほぐし理解する能力に大きく依存しています。バーバ・ムクターナンダがしばしば言ったように、「探究者は自らの努力に応じてシャクティの展開を体験する」のです。

マカラ・サンクランティにおけるグルマーイの教えについての私の熟考を読み、聞いた多くの人々から感謝の言葉をいただき、心が温かくなりました。例えばある人は、「『グルマーイの言葉についての瞑想』を読んでいなければ、私が書いたような方法でこれらのテーマについて探究しようと思わなかったかもしれない」とまで言ってくれました。その人は新たな視点を得たと感じたのです。これが分かち合うことの力です——そしてそれが、私が分かち合うことが大好きな理由なのです。私たちは、グルの教えにさまざまな角度から向き合うことを学ぶのです。

グルマーイの要請と励ましを受けて、私は再び皆さんと私の熟考を分かち合うという美しいセーヴァーをささげることになりました——今回は、マハーシヴァラトリのサツァングにおけるグルマーイの教えについてです。先月と同様に、サツァングから幾つかの要点を選び、焦点を当てていきます。グルマーイのこれらの教えについての私の探究は、3月を通して、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトに掲載されます。

マカラ・サン克蘭ティのサツァングについて私が書いた文章への皆さんのコメントは、一つひとつすべて読んだこととお知らせしたいと思います。あなたの熱意やグルマーイの教えへの真剣な取り組みに感動しました。もしそのように心に響くならば、今回の最新の「グルマーイの言葉についての瞑想」についても、ぜひ同じようにしてください。グルマーイの教えについてのあなた自身の熟考を分かち合ってください。その教えに対する私の熟考についてあなたの考察を分かち合ってください。

私はこれを一種の「デジタル・サーダナー・サークル」と捉えるようになりました。ここではグルマーイとのサツァングの後に集い、学んだこと、疑問に思うこと、さらに探究したいことについて語り合います。これが私たちがシッダ・ヨーガの道を歩む中で、互いを支え合う方法です。またこれは、この素晴らしい道に出会った新しい探究者たちが体験していることすべてについて、彼らが持っている考察や感情を表す場を作る方法でもあるのです。

